倭文庫十五編

万亭應賀作

第八篇

嘉永三年
庚戌孟春
新刊

上

へ13
3749
8

釋迦八相倭文庫

十五編 上冊

万亭應賀作

一陽齋豐國画

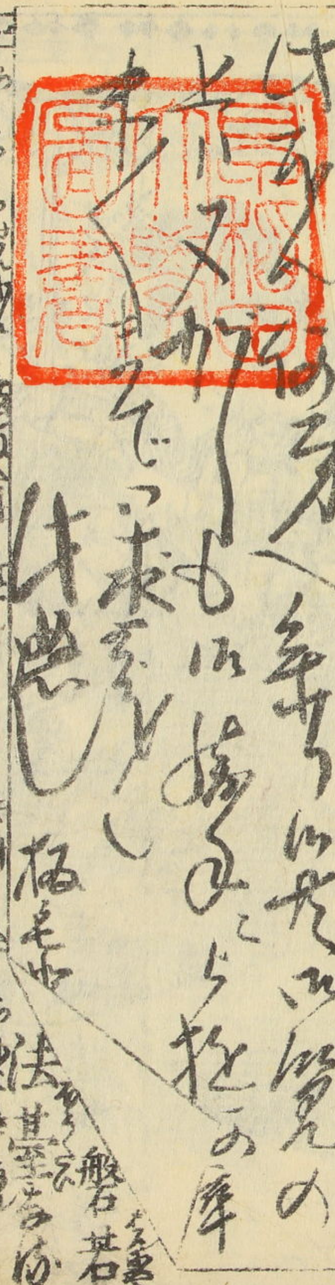
門へ13
號3749
巻 8

錦重堂梓

庚戌開鐫

釋迦八相倭文庫拾五編の序

此巻ハ悉達太子檀特山の法嶺に阿羅々仙ふ相別れ



伽四維々仙人を尋湯ふ支よりして耶輸陀羅女危難ふ

逢ふ形勢を著すこと爾り

嘉永三年庚戌

孟春吉辰開市

万亭應賀誌

耶輸陀羅姫

耶輸陀羅姫
夕陽山の麓ゆく
私良广國の
達婆太子れ
奪れ辛苦難を
逃れ出る不意
初大臣の
詰ふ
耶輸陀羅
姫の局女中
初大臣の
奥方

獅子ヶ嶽の女房
花仙女
相撲士
獅子ヶ嶽
初大臣の聟夫
獅子ヶ嶽男親の

館ゝ耶輸陀羅姫を
隠秘ーと偽言
達婆太子ゝ
詣る
私良ヶ國の
達婆太子
花仙の
親父
初大臣

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫 三十四編 三十五編 三十六編 三十七編 万亭應賀作 一陽齋豐國画
赤松譚 九編 十編 如淵外史作 同画
重井菱 六編 七編 為永春水作 同画
譚柄璃璃蔣 四編 西澤一鳳作 五編 一勇齋國芳画
茶番案文 全冊 万亭應賀作 一陽齋豐國画
神代そうは 三編 同 四編 一勇齋國芳画

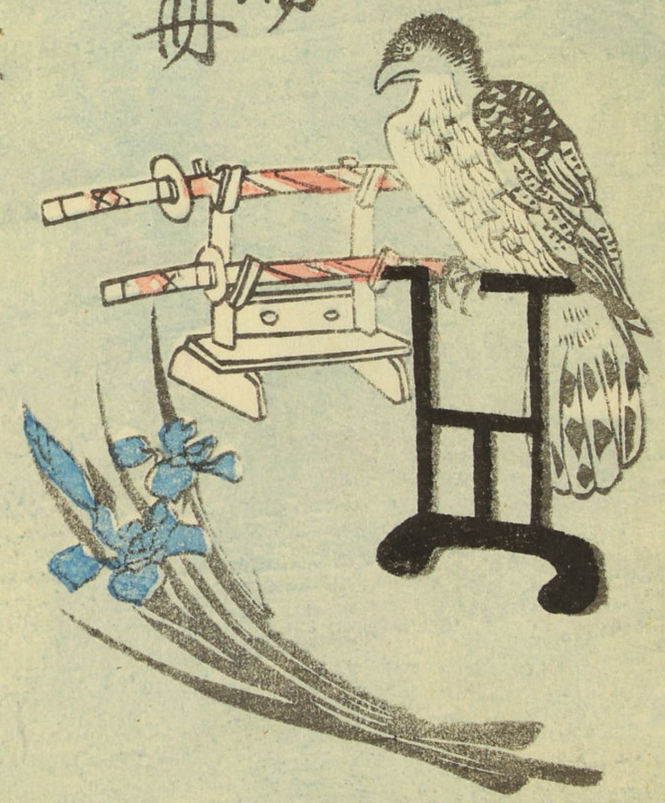
金本類錦繪 上州屋重藏

一陽齋豊國画

下

錦重堂版

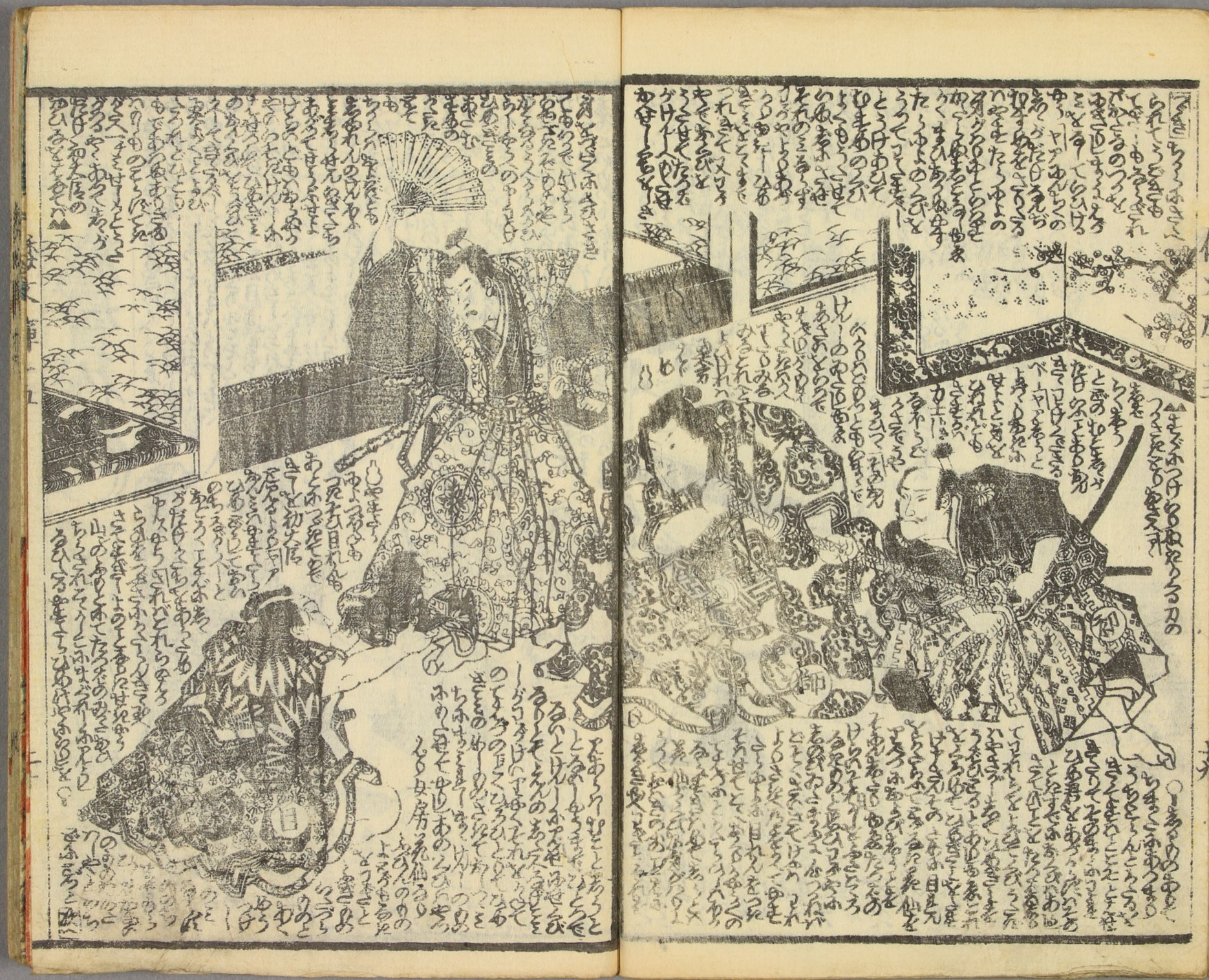
家満ゑ
ぶん太
牛若丸
下冊



歌川
豊国
戌の春

江戸坂町北地蔵
上総屋市兵衛版

御
初



万亭應賀作 一陽齋豐國画

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　嘉永年の新作　同　一陽齋豐國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

清元稽古本　初編　二編　出板

常磐津懐中本　初編　二編　追々出板仕り　三編　四編

極上摺　百枚揃　擬百人一首　是は浮世百枚揃と表紙仕立ての方は表紙に百人一首　一陽齋豐國合　勇齋芳虎　立齋廣重　筆

倭文庫十六編

天亭應賀作

万亭應賀作

繹迦八相
倭文庫十六編
巻之上

一陽齋豐國画

元大坂町代地角
上州屋重藏版

庚戌
製本

繹迦八相倭文庫十六編叙

夫丙午ハ戸毘大王檀波羅維密と行ひて鳩鴿雌雁鳥の為ホ一命と
擲て同く迦葉仏授記ホ預り釋迦牟尼佛と顕れ給ふ日也とあり又入
丙寅ハ舎利弗尊者誕生の日とあり又巳酉ハ目蓮尊者若年仏
室ホ入り神通第一の名誉と賜ふ日也とあり夫等の形代ハ
拙き筆ホ飜按き拙子定規も釋師る佛の母ハ摩耶夫人巳
ハ戯作の虚語偶人夫ゞ産出ものの冊子ハどうで本来くうくの
ざくく汁の実ハ淡く。自製味噌の塩辛ゆも。疑ゞ認て諸看
宮。尚も嗣著とさて〜ぬ世めせや幾編も末永く求て翫味と蓋ハ

ホ志ん　嘉永三年　一流戯作元祖
庚戌吉旦　万亭應賀誌

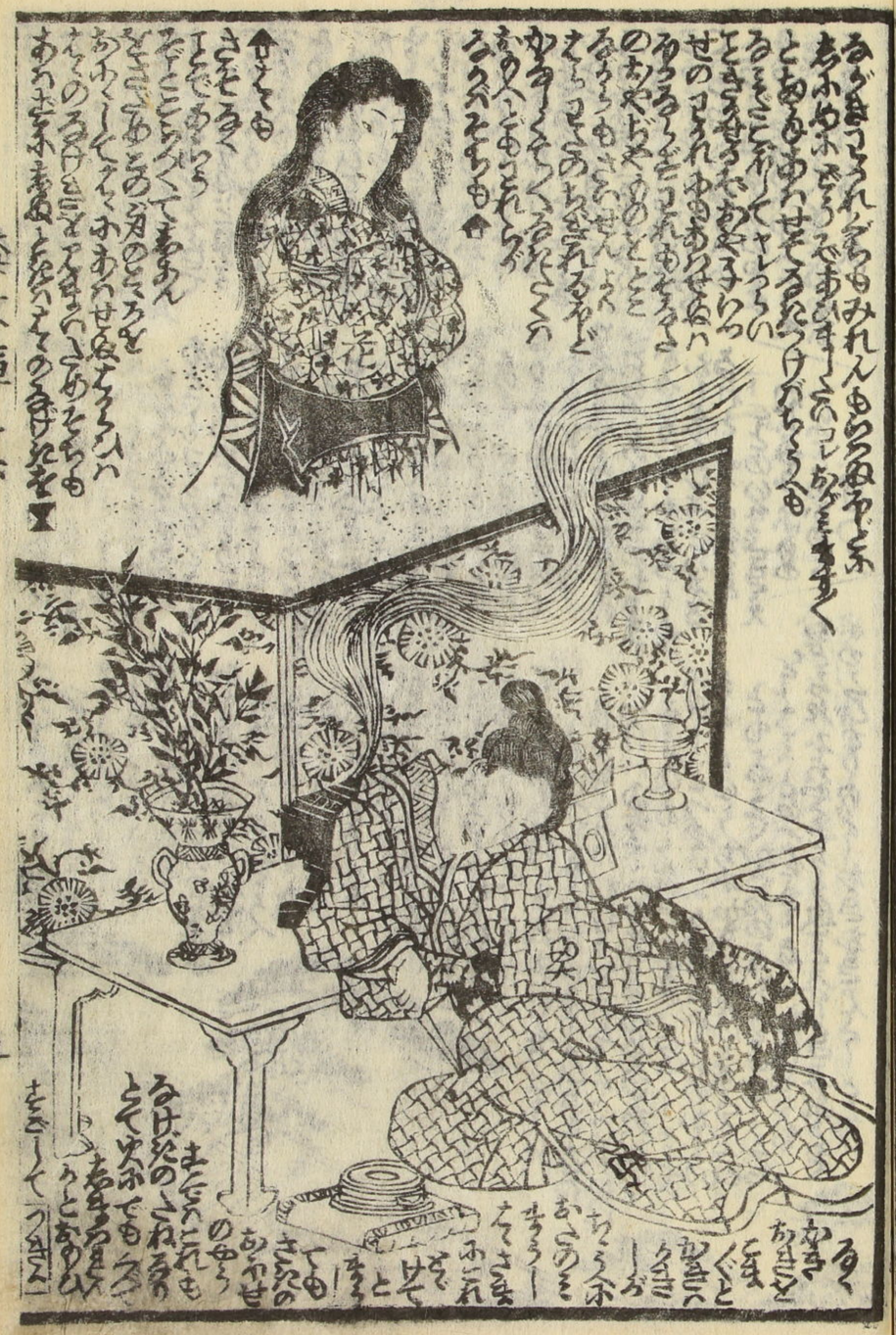
悉達太子
般若法堂
波羅
檀
密を
行ひ
鳩の身は
肉身を切賜ふ

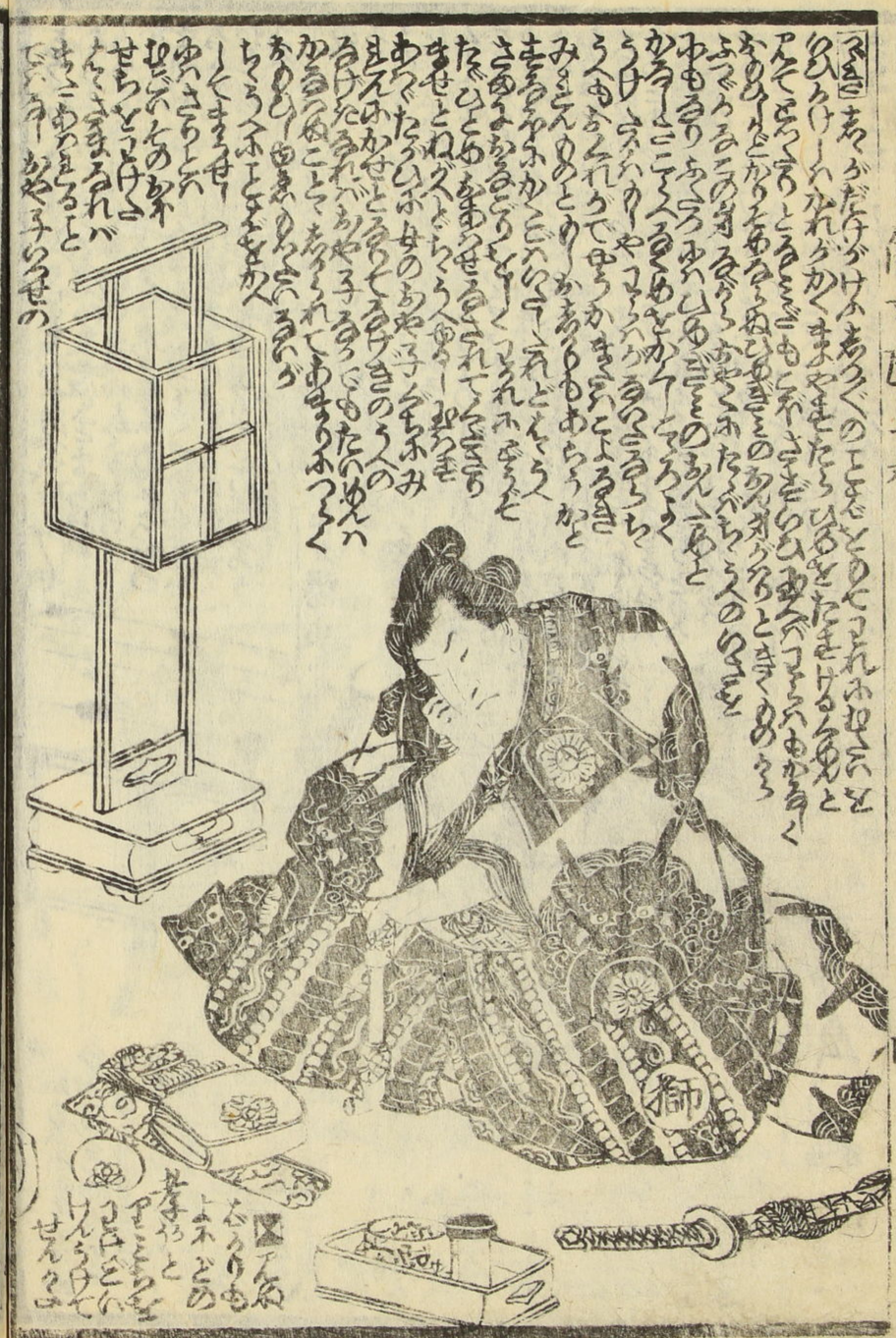
獅子ヶ獄
名と更め
初大臣の奥方

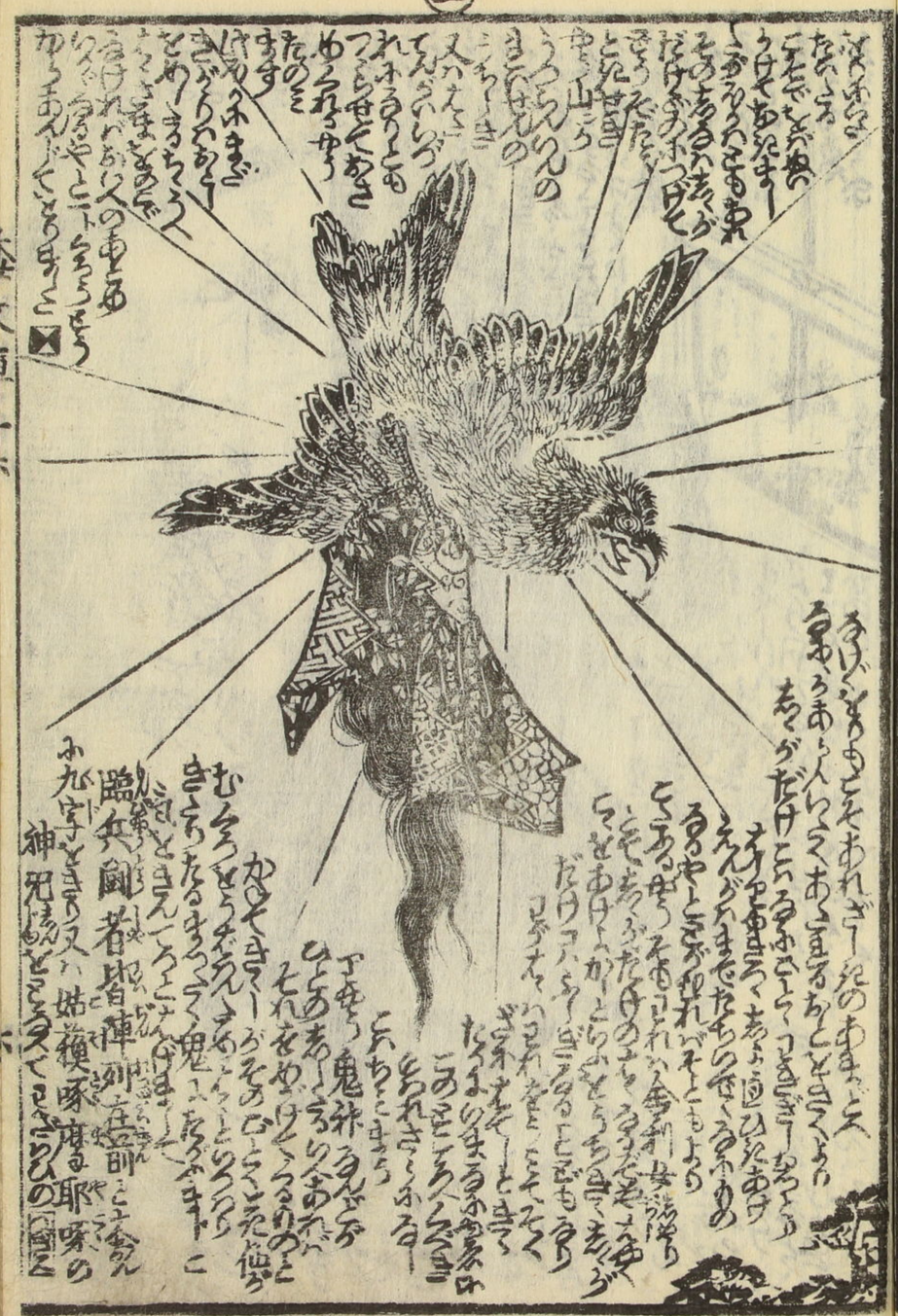
獅子ヶ獄門と
実母舎利女の
名をとりて
舎利弗と
改名し
采女達太子の
出山を
待
初大臣
日蓮
舎利弗と
号き

初
目

夕陽山







（つゞき）ちうようらんとらくにせしかど京やつにあらず
てなかくふようのうちでもかなしければたもとをそで
て金光ぎみさへきやうの呉服やくもとうあらそふて
あれこそかの親子のおかしまなだんなさんせんの
わかきみぞもとえいまさらにたまはれとあまへ
たいせつきびくみえまへく子どもおやもとへけるが
まごもぜんせひとの事をおもうせしつかのめう
せめてハ子どもらむかへしられんとてここうびの
三七日をそてその山の大ぜいたちの子とも
つゞきあれハ日もまちかくあらくせんの
のわりのそれまでにみえかけりしとてさへ
ゑひたへ法施ををとめてあやへて
つかまたうしきさわらりんを
こゝろばへをつくしもまねかれて仏
公用はほかえずるりのうらは
果報をえたとのあゆみ
のまさぞこゝろからぞそこる子の
身のうへのいせんぜのよろこびき

どうなりかの女がむくいにおそろしやひとの
きてやくそのことも天にひゞくか雷のごとし
ときてたちまちくりかへりつてあむ
ごさへあくどうりつとあさましき
あぢわらあり殺生の
まづおあきさきすさ
日に熱鉄の
くすりあり
つみをこぶ
まさせのつ
そらにあそれ
ちふかくくらに
ちるまきめにそく
ちのみとさえかう
やさに後の
すんをにすゞさえ
私京広国

應賀

作豐國画

倭文庫　三十四編　三十五編　三十六編　三十七編　万亭應賀作　陽齋豐國画

赤松譚　九編　十編　如淵外史作　同画

重井菱　六編　七編　為永春水作　同画

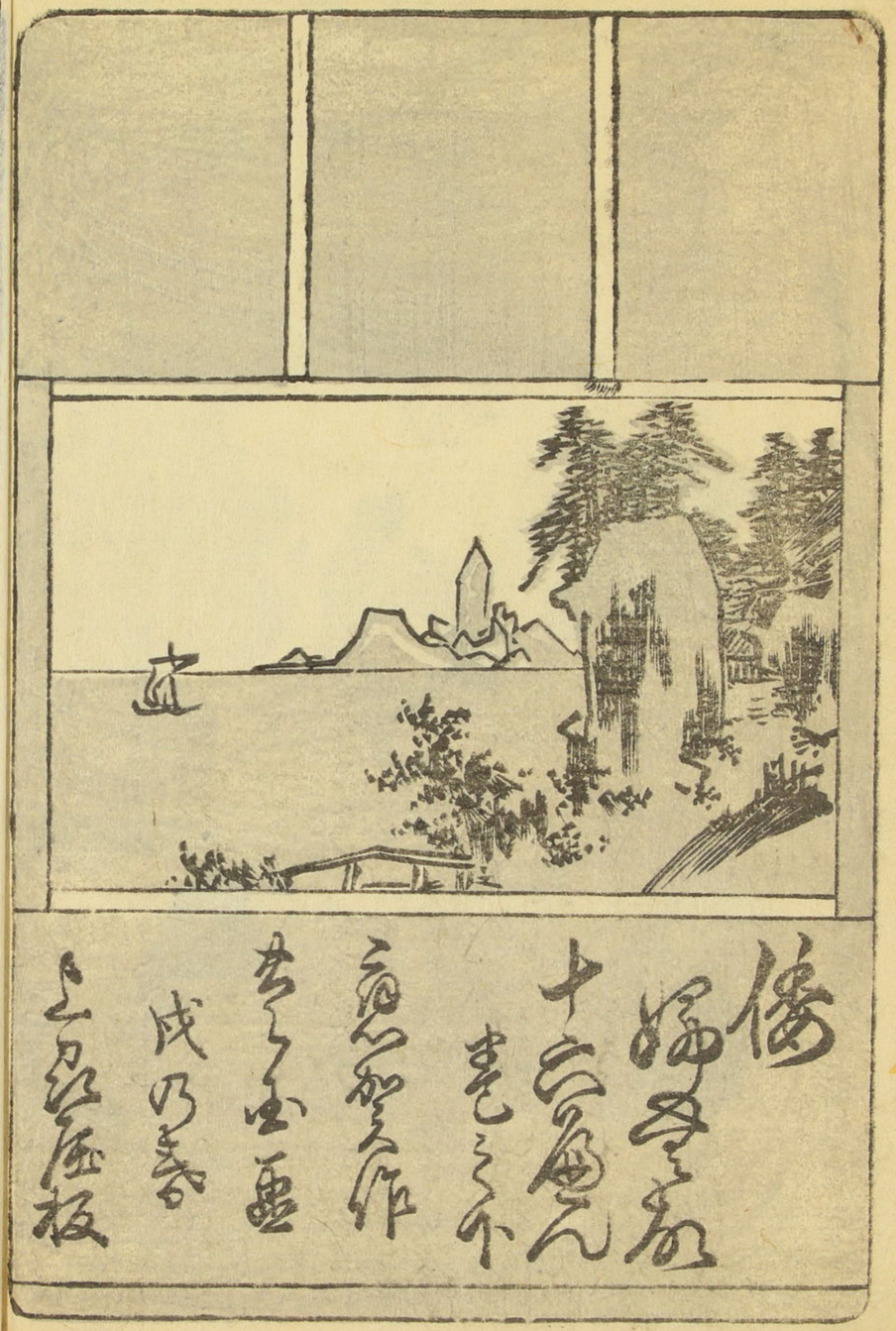
譚柄璃璃蔣　四編　五編　西澤一鳳作　勇齋國芳画

茶番案文　全冊　万亭應賀作　陽齋豐國画

神代そろはん　三編　四編　同作　勇齋國芳画

金本類錦繪　人形　上州屋重藏

一陽齋豊國画
錦重堂梓
下


傷
十二月廿日
戌の春
彫板

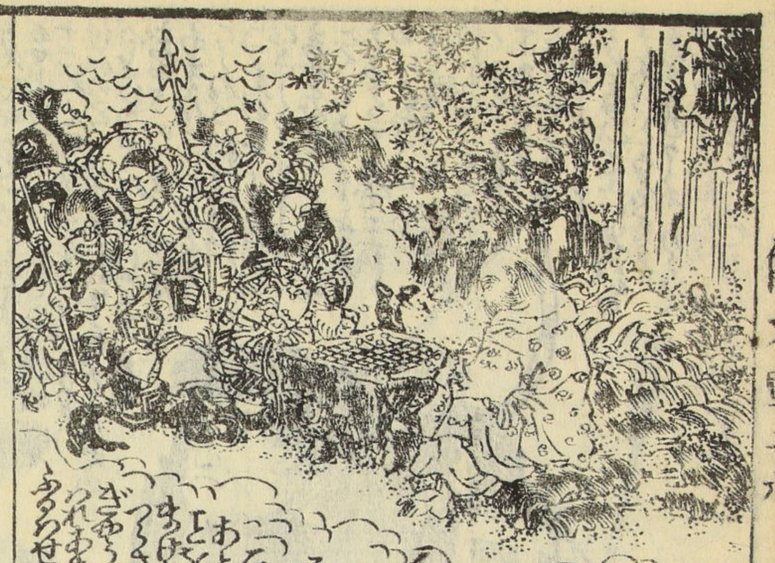
初
御

太

日天

万亭應賀作

一陽齋豊國画



つき　郭正ぢや　こうれて
二十日すぎより黒白数の
そのかちまけをとるぶとどろきのあらそ
からくいゆちくそれのこあんど
ひきまうしてかくえゆきりん
ぶんこれがてるめいあきさろ
るぐらうそよりるえちぐ
きくるをいあたくまだ
これたぐちふむくきこ
らんこぐらくこゆと
ひろみてつと月をおそて
ろうぐりひ女いまろこの
ろくゆるるくあげもるくなと
けりこを出ずかど木のれとふを
こえて山上きりてのおだ四く
あとふまるよりつくとまてくろ
よとろちあくりのひらえんドぐ
ちけてくばこれ
つくさ月中もあ
ぎあるつとめ
れまるあら王のれ
あるりせとのれも

△ちりひがるるた矢ひ
たろとあどろたるまも
みとかまりそた天下まち
ま人るるらんまこ
ぞともあくるあ
ムるあたてどきろをるの
そどあひしくだをまいそく
ようくあ動ふかこれ
あらそたくどことしてのこた
ふこれ枝ぎをこれふあさへる
ちんあるんとふまるひるられい
さそいらをしの矢をさけて
こくへあげきてるしそらんよう
るまいこもかくもこりけりの
あいせまりられてこぐゆところ
ふのるとたいかりうどもこれを
どこぐさとうるどこをあうまるて
へもわらまりてあるるる
るれどたまけぎんいあるぐうたを
とそるまくひそうふたうとの
こそるたうのうちくぐ
あいねめそこ
くくく

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　嘉永年の春之手遊　同　一陽齋豊國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續　仕立外ノ表紙ハ上ヲ立タル仕立ニ

清元稽古本　初編　二編　出板

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追ヒ出板仕ル

極上摺　百枚摘　擬百人一首　昆布絵百枚摘ニ表紙仕立ヲ極上摺ニ百枚摘

一陽齋豊國　勇斎国芳合筆　立斎廣重筆

梵語千字文